



## 県内ニュース

>>山形新聞トップ >>県内ニュース >> 社会

ツイート 14

いいね! 4

B! 0

mixi チェック

g+1 0

### 「縄文の女神」3Dモデル完成

2013年12月17日 20:

国宝「縄文の女神」（西ノ前土偶）を復元した実物大3Dモデルが完成し、17日、山形市の県立博物館で披露された。電子機器製造などの神町電子（東根市、板垣政則社長）が導入した最新の3Dプリンターを使って制作。本物のスタイルそのままに触れる“純白の女神”が誕生した。

アクリル系樹脂製の3Dモデルは重さが実物よりも約1キロ軽い2.12キロ。神町電子によると、東北芸術工科大が計測した3Dデータを使い、上下に分けて制作し接着剤で接合したという。マイクロメートル単位で面を積み上げて造形するため、制作には65時間かかった。板垣社長は「2分の1サイズの模型を2体ほど試作し、接合などを試行錯誤した」と語る。材料費は約30万円。

きっかけは博物館と県立産業技術短期大学校が今年6月、3分の1サイズの3D模型を作ったこと。神町電子はこの報道を見て、9月の3Dプリンター導入後、博物館に制作を申し出たという。現在2体あるレプリカでは出張展示などに限界があり、博物館側も比較的成本の安い3Dモデルを望んでいた。

当面は常設展示し、イベントなどで「触れる時間」を設ける考えだ。高梨博実館長は「本県の技術力の高さをPRすることにもつながる。また、触ることで目の不自由な人も形を知ることができる。ぜひ『縄文の女神』を身近に感じてほしい」、板垣社長は「開発型、提案型のビジネスモデルを構築するため取り組んだ。たくさんの人に目にしてほしい」と話していた。

クリックで拡大表示



縄文の女神（左）と“対面”する実物大3Dモデル  
＝山形市・県立博物館

用語解説: [産業技術短期大学](#) [材料費](#)

Keywords by **weblio**